

慢性疼痛の就労支援評価用フラッグシステムの検討  
研究分担者 福井聖 滋賀医科大学ペインクリニック科 病院教授

研究要旨: 当研究班が作成した、「慢性疼痛の就労支援評価用フラッグシステム」について、複数の医療者で合議を行って評価した。上記システムの使用感やさらに検討が必要と思われる点について列記した。

### A. 研究目的

慢性痛患者の包括的な評価における参照枠の1つとしてフラッグシステムがある。当研究班は、痛みによって就労困難な状態にある患者の支援方法を検討するための評価ツールとして、「慢性疼痛の就労支援評価用フラッグシステム」を開発してきた。当該システムを使用し、多職種が集うカンファレンスにて、症例検討における使用感やさらなる検討を要する点を合議したので、報告する。

### B. 研究方法

医師3名、理学療法士2名、公認心理師1名、看護師2名の多職種で、痛みによって就労困難な状態にある慢性痛の症例1名に対して、「慢性疼痛の就労支援評価用フラッグシステム」を用いて評価を行い、使用して感じたことについて討議した。

(倫理面への配慮)

研究参加者へは、治療方針について多職種で行うカンファレンスにおいて個人情報に関して取り扱うことを事前に口頭にて説明し、同意を得ている。

### C. 研究結果

多職種での討議から、さらなる検討が必要な点として、以下5点が共有された。

#### 1. 分量

包括的だがやはり項目が多い等

#### 2. 既存のiPadシステムとの連動

班会議でiPadシステムとの連動が説明されたが、サーバーへのアクセスの方法等

#### 3. 各項目の階層に関して

網羅的であるがすべてが並列であり優先すべき項目の判断が困難等

#### 4. 就労支援への活用に関して

慢性痛者の状態把握を経て、これをどう就労支援に活用できるのか等

### D. 考察

各々の職種から得られた患者情報を包括的に整理できるツールであると合意した。一方で、治療方針や意思決定を導くツールとしてさらなる発展が期待される。また、既存iPadシステムとの連動や出力画面について調整が必要と考えられる。

### E. 結論

フラッグシステム評価ツールの臨床実装と、さらなる改良が望まれる。

### F. 健康危険情報

特になし

### G. 研究発表

久郷真人ら、慢性頸肩腕痛に対する運動療法と認知行動療法を併用した介入の短中期効果, 第14

回運動器疼痛学会学術大会, 名古屋(オンライン)

1. 特許取得 特になし
2. 実用新案登録 特になし
3. その他 特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況